

図書館だより

NO.29

令和4年2月1日発行
函館工業高等専門学校



文教堂函館昭和店にてブックハンティング

目次

学校図書館と私	1
学生の読書感想文	2・3
退職教員の読書のすすめ	4
新任教員からのおすすめ本	5
カンボジアの図書館と私の読書	6
今年度の学生希望図書	6
学年・学科別利用状況	6
図書委員会の活動報告	7
本校教員執筆図書紹介	8
編集後記	8

学校図書館と私

図書館長 奥崎 真理子

私は中学1年生で転校を経験した。新しい学校に慣れず、友達もできず、不安な1学期を過ごした。そんな自分の気持ちを和らげ、元気づけてくれたのは、学校図書館で偶然手にした『赤毛のアン』だった。天涯孤独の少女アンが、もらった先のグリーンゲイブルスで困難に立ち向かい、新たな人間関係を構築し、人生を切り開く姿に、勇気と生きるヒントをたくさんもらった。2学期の間に全7巻を読み終わり、同じ頃、教室やバレーボール部で自分の居場所を確立できるようになった。

高校2年生の頃は、大学進学を前に受験勉強に取り掛かる覚悟が持てず、机に向かうきっかけとして高校の図書館にあった北杜夫の『どくとるマンボウ』シリーズを手にとった。予想を裏切る面白さに本を貪る私を心配し、まもなく、母親が担任の先生に「読書を止めさせて」と相談したことを担任から聞いた。母親は、私が受験勉強から逃げていることを見抜き、イエローカードを出したのだ。親を心配させた申し訳なさと、親に信頼されていない自分の不甲斐なさで、「自分がかっかり」したことを覚えている。そして、大学合格まで図書館通いを封印し、本への渴望を、受験勉強を乗り越えるエネルギーに転換させた。

大学での図書館は、下宿先、講義室、部活動の次に、頻りに足を向ける場所だった。授業や演習、卒業研究で、指導教員から、「君たちは全然調べ方が足りない。もっと読め。もっと調べろ。」と叱咤激励され続けた。そして、大学3年生の秋、ミシガン州立大学に留学し、その図書館の大きさと蔵書数、そして24時間学生に開放しているシステムに度肝を抜かれ、更に、そこで必死に勉強している多くの学生たちの姿を見て、自分の「学び」の甘さに気づいた。大学で勉強することの意味と価値を、私はミシガン州立大学図書館とそこに集う人たちから学んだ。

函館高専には地域に誇るべき図書館がある。ぜひ、多くの学生たちが活用し、図書館で出会い、学び、感じ取ってほしい。アフターコロナの時代、人が集まる場所に出向くことを好まない人たちもいるだろう。そんな人たちにも函館高専図書館には、オンラインで蔵書検索ができるシステムがあり、皆さんを導いてくれる素晴らしい図書館スタッフが居り、電子書籍が用意されている。函館高専の図書館で人生観が変わる。学習意識が改善する。学びの姿勢を習得する。函館高専図書館は、きっと、あなたの人生にも一役買いますよ。



学生の読書感想文

泊先生の日本語コミュニケーションIIの授業で、ブックレビュー高評価本の読書感想文です。

『ディズニー おもてなしの神様が教えてくれたこと』を読んで

タイトル：ディズニー おもてなしの神様が教えてくれたこと

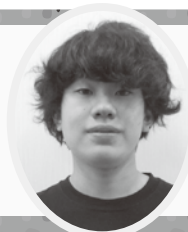
著者名：鎌田洋

出版社：SBクリエイティブ



2年生産システム工学科
機械コース

中村 希平



この本はディズニーランドの基本である、「おもてなし」がテーマです。東京ディズニーランドのおもてなしの根本にあるのは、ただ純粹にゲストのハピネスを願う、まさに「表も裏もない」気配りの精神と言えます。そして、その「おもてなしの心」が、世界各地にあるディズニーランドの中でも、最も綺麗で、最も真心溢れた夢の国を創り上げているのであると思います。本書は今、働くことにマイナ

スのイメージが大きい現代に合っている本だと思います。

「サービスとおもてなしは何が違うのか?」「そもそも、なぜ自分はサービス業をしているのだろうか?」など、ディズニーランドのキャストが「本当のおもてなし」に気づき、学び、それを実践できるまでに成長していく姿を、3編の感動物語を通し、紹介しています。

『熱帯』を読んで

タイトル：熱帯

著者名：森見 登美彦

出版社：文藝春秋



2年生産システム工学科
電気電子コース

工藤 海久斗



この本は『シンデバッド』、『アラジン』、『アリババ』などが収録されている千夜一夜物語（アラビアンナイト）へのオマージュのような小説である。千夜一夜物語と同様に、登場人物の語る物語の中に登場する人物がさらに物語を語っていくといった物語の展開の仕方は、さながらマトリョーシカを彷彿とさせる入れ子構造となっていて面白い。また、様々な謎、伏線が盛り込まれていて、入れ子構造であることと相まって読んでいると思考が『熱帯』

を取り巻いてこんがらがってしまい、さながら自分も物語の中に入り登場人物たちと一緒に『熱帯』の謎について迫っているのだと何度も錯覚をさせられてしまう。また、本の袖や表紙にもギミックが仕込まれており、終始、強烈で印象深い伏線たちによって思考を止めることを許してはもらえず、ふわふわもやもやと伏線に翻弄されてしまう。あまり類を見ない面白い小説なのでぜひ皆さんにも読んでみてほしい。

『アリエナイ理科ノ大事典』を読んで

タイトル：アリエナイ理科ノ大事典

著者名：薬理 凶室

出版社：三オブックス



2年生産システム工学科
電気電子コース

林 和総

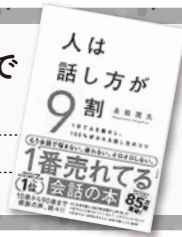


私がこの本を読もうと思ったのは、著者の動画で紹介されていて興味を持ったからでした。内容は主に科学についてのトピックスで、大きく生物、化学、物理に分けられています。教科書には載っていないような危ない実験などについて紹介されていることが特徴です。そして最後に著者のあとがきの部分があるのですが、その部分を読んで科学に対しての見方が大きく変わりました。高専に来た人の多くはどの分野であれ、科学に関する仕事を持ちます。

そこで、この本を読む前の私は科学を、将来お金を稼ぐために勉強しなければならないものと思っていました。でも、「技術者や科学者の原点とは、単純に興味を持って面白いことをしたいだけなのではないでしょうか」という文を見たときに、今の私は科学の面白さを忘れていたと気づきました。自分が科学の道に進みたいと思った理由を、この本は教えてくれたと思います。

『人は話し方が9割』を読んで

タイトル：人は話し方が9割
著者名：永松茂久
出版社：すばる舎



2年生産システム工学科
情報コース
馬場 光平



この本は「人とコミュニケーションを取ることが苦手」、「初対面で何を話したらいいかわからない」といった思いを持っている人に贈る本です。この本を読んだきっかけはコロナでオンライン授業になり、登校したときに友達ができるか心配だったからです。また、将来社会に出たときに必要な力として求められるものだと思うので、この本から学べることは一生使えるものだと思います。この本の心に残ったフレーズは、「単に口から出す言葉だけ

のテクニックをいくら学んだとしても残念ながらうまくいきません。それは、あなたの話を聞いている人はあなたの口から出る言葉だけではなく、総合的なものであなたの話を聞いているから」というフレーズです。普段の態度や雰囲気から評価されていると思うので、日常生活からしっかりしようと思える言葉でした。この本は言葉のテクニックだけでなく生き方も変えてくれる本だと思います。

『私が大好きな小説家を殺すまで』を読んで

タイトル：私が大好きな小説家を殺すまで
著者名：斜線堂有紀
出版社：KADOKAWA



3年物質環境工学科
湊 海音



ふと視界に入った『私が大好きな小説家を殺すまで』という題名の本。手に取り、最初の一文を読めば誰しものが斜線堂有紀の世界に飲み込まれるだろう。私は、読者の心を掴みそして翻弄する斜線堂ワールドの虜となった。著者の書く本は起承転結がわかりやすい構成になっていて、尚且つ話の展開を予

測しにくい。それがこの本の面白みの一つである。最初の一文から読者の心を掴み、徐々に盛り上がってさらに盛り上がり、静かな喪失感を添えて物語は終わりを迎える。次はどのようなだろうと、気になって気になって仕方がなくなる、私オススメの本である。

『超面白くて眠れなくなる数学』を読んで

タイトル：超面白くて眠れなくなる数学
著者名：桜井進
出版社：PHP研究所



2年社会基盤工学科
佐藤 嶺也



皆さんは数学と聞いてどう思いますか。苦手で嫌いな教科だと思いませんか。それとも一番得意で好きな教科だと思いませんか。この本は数学が好きな人も嫌いな人も驚くような数学の素晴らしさが書かれていると思います。個人的に驚いた内容は、電卓にある細工をするだけで相手がなんの数字を打ち込んだか分かるというトリックのようなものです。他にも多く驚くことがあります。このように単純に見える数字にも深い意味が込められているの

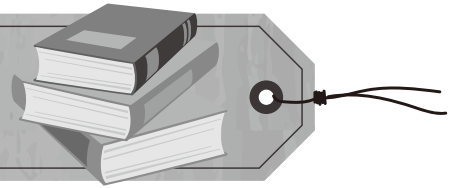
だと感じました。また、「計算とは旅である。」という言葉に衝撃を受けました。この言葉には、どんなに難しい問題でも色々考えて工夫をすれば絶対に解けるという事と与えられた問題の答えや、その答えに達するまでの過程は一つではないという意味が込められているのではないかと思います。僕は、数学とはとても楽しく、最も奥が深いものなのだなとこの本を読んで感じました。

退職教員の読書のすすめ



一般系
新田 一夫

「読書エッセイ」



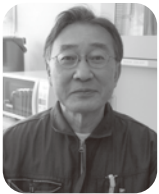
これでも文学少年だったと思っています。小学生の頃から、世界何とか文学全集などからの一冊をいつも手にしていました。本の虫というほどではありませんが、何かしら読みかけの本が手元にある状態は今でも続いています。電車や病院の待合では、本がないと何やら落ち着きません。これまでに傾倒した作家も数知れず、節操もなく気変わりが多かったからとも言えます。

そんな中から何か1冊をとると困りますが、一応数学教員なので、リヒャルト・デデキントの『数について』にします。一般向けの古典的な文庫で、古書店前にある投げ売りワゴンによく見つかりそうな1冊です。実数の集合の特別な性質を、ある方法で特徴付けていくのですが、発想がとても面白いです。もちろん面白くない人もいるから、ワゴンの中

で見つかるのですが。

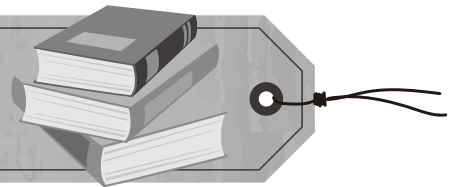
そんな人のためには滅茶苦茶な1冊も。アフリカの作家エイモス・チュツオーラの『やし酒飲み』という作品です。「やし酒」が飲みたいばかりに始まる滅茶苦茶な話ですが、とにかく潔く滅茶苦茶な話です。必ずや「やし酒」が飲みたいくなります。後にその「やし酒」を飲むことができたときは得心がいきました。

最後に、函館に来たおかげで読み始めたものも。宇江佐真理の『髪結い伊三次捕物余話』シリーズです。筆者は函館出身で、函館在住のまま執筆を続けていました。シリーズは15巻までですが、その先は誰も知ることがないまま、残念ながら筆者が亡くなられました。未完結ですが、終わらないからまた初めから読みたくなる作品です。



技術教育支援センター
高橋 一英

「読書エッセイ」



SDGs（持続可能な開発目標）目標3の中には、「健康的な生活や福祉の実現」とある。技術者の観点から、新型コロナウイルス感染症を正しく知り、健康的な生活や公共の福祉に寄与できる行動を心掛けることが大切である。3密回避、飛沫感染、エアロゾル、陽性率、抗体・抗原検査、デルタ・ラムダ株など用語集が必要なくらい新型コロナ情報は膨大で錯綜している。

退職に伴い読書エッセイの依頼を受け、普段は技術書以外に縁のない自分にとって自責の念を隠し切れず書店に駆け（逃げ）込んだ。店頭にあった1冊の本を手にとって読むことにしたのが『新型コロナの大誤解』という本である。技術者にとって情報の真実性の確保は大切なことである。頻繁にマスコミから流される一方的な新型コロナ情報はどの程度真実なのか、TVコロナと揶揄されている新型コロナの

真実を知る欲求が強まった。ネット・SNS情報もあるが、昭和世代は活字信奉者である（活字にも大誤解がある）。

この本から新型コロナ感染の脅威を簡単に解釈すると、飛沫感染よりも、空気感染の防止（換気）を徹底することが重要である見解を得た（あたりまえでがっかりしないでください）。ウィルス量とエアロゾルで説明がつく。飛沫防止板よりも、マスク着用の室内換気が最も有効と理解しただけでもこの本を読んだ価値はあった（大誤解かも）。他にもあるが…。

読書行為には、活字を求める欲求や趣味に没頭する世界、また必要に迫られ情報を求めるなど、様々な領域があると思う。これからも（は）読書を意識した豊かな生活を心掛けたい。

新任教員からのおすすめ本



社会基盤工学科
越智 聖志

タイトル：俺のがヤバイ

著者名：滝原勇斗

出版社：飛鳥新社



私は、基本的に興味がある人物（著者）の自叙伝的な本を読むといった読書が多いです。今回紹介する本も著者の滝原勇斗というMOROHAというアーティスト名でMCアフロ名義（もう一人はギターのみ）で音楽活動をしている人物です。皆さんは、ポエトリーリーディングという音楽のジャンルを知っているでしょうか。詩の朗読とラップの中間のようなジャンルの音楽です。私の人生指針の大ききは、この音楽や歌詞から得て生きてきました。特に、

MOROHAの「革命」という曲を初めて聞いたときには、横面を引っ叩かれたくらいの衝撃でした。そういった意味でも、そんな歌詞を綴る彼についてもっと知りたいと思いこの本を手に取り読みました。本の内容は、いたってコミカルに自らの人生について嘘偽りなく綴っています。皆さんも是非、この本を読んでMOROHAの音楽を聴き、ライブに行き、彼の熱量を体感してみてください。何か人生の指針が見つかるかもしれません。



一般系
酒井 渉

タイトル：セルフケアの道具箱

著者名：伊藤絵美

出版社：晶文社



学生さんたちにお勧めできる図書として、『セルフケアの道具箱』を挙げたいと思います。自分でできるストレス対処が多数（100個）載っています。見開き2ページで1個のストレス対処が載っており、短く簡潔に紹介されています。かつイラストつきで見やすいです。紹介されているストレス対処は、例えば、「否定的な考えが浮かんだら、紙に書いてトイレに流す」など、直接的で即効性の高いも

のばかりです。100個すべてを習得する必要はありません。100個の中から自分に合うものを選んでください。著者は、開業カウンセラーとして著名な伊藤絵美さんです。この本には、伊藤さんの実体験も多数紹介されていて、親しみやすい本です。この本に出ているストレス対処を試してみて、それでもストレスへの対応が難しければ、専門家への相談を検討してみてください。



一般系
松岡 由佳

タイトル：最初の人間

著者名：アルベール・カミュ(大久保敏彦訳)

出版社：新潮社



大学時代の恩師の一人は、フランス文学の教授である。自分の専門分野をはみ出して原文講読のゼミに参加していたことが、懐かしい。『最初の人間』は、アルベール・カミュの自伝的小説とされる。主人公ジャックは、生まれて間もなく戦死した父が眠る墓地を、40歳を過ぎて初めて訪れる。ジャックの故郷はフランス領アルジェリア。1950年代半ば、アルジェリア独立戦争のさなかに、ジャックは父の記憶を求めて帰国する。母や恩師との再会を通

じて蘇る、少年時代の記憶—読み書きも知らず、生活の糧を得るために働く母と祖母。耳が不自由な叔父。父親のような存在の小学校教師。貧民街で暮らすアラブ人や同年代の子どもたち。その誰もが、焼けるような太陽の土地で、ひたすら現在を生きる。人間は往々にして時代や生まれには抗えないが、貧しさの中でも食欲に生きるジャックの姿は、人間の豊かさと日々暮らしにこそ見いだせるものであることを教えてくれる。

カンボジアの図書館と私の読書



3年物質環境工学科
ラチャナ
(SOVANRACHANA HENG)
留学生(カンボジア出身)

カンボジアは過去にフランスの影響を受けたので、フランス語の文献がたくさん残っている。それで図書館の中にあるほとんどの専門の本はフランス語で書かれているが、クメール語と英語の本もある。専門に関係する本はクメール語に翻訳されたものがあまりなく、フランス語と英語の本がたくさん所蔵されている。

暇なときはいつも本を読んでいたので、図書館は大好きな場所になった。図書館は本を読むための場所だけではなく、静かな場所なので、そこで勉強とか宿題とかもできる。図書館で誰かがうる

さく会話をするとう先生が怒るから。

小さいときから今まで図書館で読んだ本はたくさんあるが、今も印象に残っている本は少ない。それでも最も心に残っているのはカンボジアの歴史に関する本だ。自分の国の歴史がよくわかるのは大切なことだし、カンボジアの歴史は自分にとって一番面白いので、いつもそれらの本の内容が頭に浮かぶ。読んだときには賞賛、悲しみ、怒りを同時に感じて、今でもそれはとても心に刺さっている。

今年度の学生希望図書

図書館では、学生の皆さんのニーズにお応えするため、学生さんからのリクエストを募集しています。学生の皆さんのための図書館です。どんどん活用して下さいね!



学年・学科別利用状況

学年・学科別 貸出冊数 (2021年4月1日-12月31日)

学年	組	1組	2組	3組	4組	5組				学年別計
1年		80	34	156	39	48				357
学年	学科	生産システム工学科			物質環境工学科	社会基盤工学科	生産システム工学専攻	物質環境工学専攻	社会基盤工学専攻	学年別計
		機械コース	電気電子コース	情報コース						
2年		23	14	18	10	17				82
3年		53	31	7	67	7				165
4年		85	94	16	12	20				227
5年		168	45	76	38	66				393
専攻科1年							27	5	16	48
専攻科2年							10	8	38	56
										1,328

・クラス別平均貸出冊数は、42冊でした。

・一番多く本を借りたクラスは5年機械コースで、168冊でした。1年3組も156冊と続いています。

(総計)

図書委員会の活動報告

ブックハンティング

1年2組 藤巻 虎士朗

今回、函館高専の図書委員として文教堂函館昭和店でブックハンティングを行いました。店に並んでいる本の中から読みたいと思える本に出会えるかが不安でしたが、今まで読んで来なかった本のジャンルにも触れることが出来、その中で五冊の本を選ぶことが出来ました。

私はブックハンティングに参加して改めて読書の楽しさを感じる事が出来ました。高専に来てからあまり本を読んではいませんでした。ブックハンティングを通じて、再度本を読みたいと思ひ、夏休み中や休日に読書をするようになりました。知識や語彙力などの読書を通じて得られるものは将来を豊かにしてくれるので、忙しい人も多いと思ひますが時間を見つけて読書をして欲しいと感じます。

最後になりますが、今回ブックハンティングを実施するにあたって協力頂いた文教堂函館昭和店様、奥崎図書館長を始めとした関係者の方々、このような機会を設けて頂き本当に有難うございました。

POP・企画展示

1年4組 西川 景サミュエラ

皆さんは「本を読む」と言うことに対してどういうイメージを持っていますか？

人によって様々ですが、知識をつけたり勉強したりするというイメージを持つ人が多いと思ひます。でも、そんな「本」が人の人生を変える1つの重要な要素になることがあるのです。実際私はある本と出会って、日々の物事の捉え方や考え方が大きく変わりました。その本がなければ今の私はいなかったと言っても過言ではないでしょう。一つの本のたった一文の影響で、ポジティブになれたり、その日1日がとても素晴らしいものを感じられたりすることもあります。一つの本が人に知識を与えるだけでなく人の考え方をええたり将来をええたりするのです。

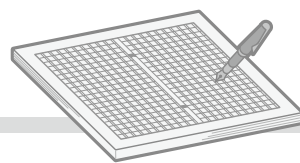
今回、図書館の展示で自分にとって大切な本を紹介できることを嬉しく思ひます。また、他の図書委員の方々がおすすめの本を厳選して展示しています。ぜひ図書館に立ち寄ってみてください。

皆さんも本を読んで人生をええてみませんか？



みんなで協力して
楽しく活動できました!

【本校教員】執筆図書紹介



寺門 修 (物質環境工学科)

『プラスチックのケミカルリサイクル技術』 (シーエムシー出版)

p 175～183 執筆

海洋プラスチックごみ問題や廃棄された不織布マスクなど、いま改めてプラスチックのリサイクルが注目を浴びています。本書は、数多くのリサイクルのうち、化学原料化などのケミカルリサイクル技術に関する書籍になります。本校の卒研成果も掲載しています。



奥崎 真理子 (一般系)

『IMPACT』2021年3月号 (Science Impact 社)

p 32～p 34 執筆

科研費を頂いて発表した論文「英語音読モニタリングの自律化」が、Science Impact社が出版する学術雑誌Impactの2021年3月号で取り上げられました。この雑誌には印刷版とデジタル版があり世界の大学や研究機関で読まれ、世界で最大のオンライン学術情報源IngentaConnect上でオープンアクセスされます。



泊 功 (一般系)

『三体III』 (早川書房)

上巻 p 361～p 430、下巻 p 5～p 165 翻訳

『三体II』でいちおう和解したように見えた三体星人と人類だったが、その裏では恐るべき計画が進んでいた…。IIの主人公羅輯 (ルオジー) に代わり、IIIでは地球防衛を担保する女性執剣者程心 (チェンシン) が主人公として登場する。そして物語は宇宙の終わりから時空の終わりへと暴走、原作者のイメージーションが爆発します。



中村 和之 (一般系)

『元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア』 (勉誠出版)

p 239～250 執筆

日本はモンゴル帝国/元朝の歴史研究では、最先端を走ってきた。本書は、現在の日本の元朝史研究の状況がわかるように、各分野の専門家が分担執筆している。私は「モンゴル帝国と北の海の世界」を執筆し、元朝がアイヌをどのように支配しようとしていたかを論じている。



NITH.LIB6314

おすすめ本や図書館からのお知らせ、イベント情報などは、
Instagramや**ホームページ**をご覧ください。



函館高専図書館

編 集 後 記

わたしは職業柄自分の専門以外の本もよく読むほうですが、それでも本誌で教職員や学生のみなさんが渾身の力で紹介してくれる本については、ここで初めてその存在を知るものばかりで大変刺激になります。また留学生ラチャナさんが、自国の歴史に関する本について「自分の国の歴史がよくわかるのは大切」、そして歴史に対して「賞賛、悲しみ、怒り」を感じると述べているのがとても印象的でした (泊 功記)。

図書館だより NO.29

独立行政法人 国立高等専門学校機構
函館工業高等専門学校 図書館

函館市戸倉町14番1号
TEL 0138-59-6314

表紙題字：社会基盤工学科教授 平沢 秀之